

## 会議録（概要）

会議名	平成29年度 第2回芦別市いじめ問題対策連絡協議会		
年月日	平成30年2月2日（金）	時間	17:55～19:40
場所	芦別市役所 3階 第1会議室		
出席者	出席委員（13人） 田中委員、松井委員、山田委員、照井委員、相馬委員 西村委員、福島委員、中村委員、平手委員、林委員 竹内委員、久保田委員、和田委員 担当所管（5人） 学務課 山田課長、木野田係長、鈴木主査、田畑専任指導員 生涯学習課 本間課長		
議題	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 報告事項 ア. 平成29年度 学校・教育委員会の取組について イ. 「携帯電話・スマートフォン・ネット利用の基本ルール」の周知について ウ. いじめ把握のためのアンケート結果について (2) 協議事項 ア. 芦別市いじめ防止基本方針について 4 その他 5 意見交換 6 閉会		

議 事	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶 <b>(会長)</b></p> <p>委員の2年の任期が満了になりつつある。委員の皆さまからは様々な角度から大変貴重な意見をいただき、本当に実のある活発な協議会であると感じている。既存の取組に対してもお話をいただき、少なからず対応させていただいたと考えている。いじめの根絶に特效薬はないと思われるが、諦めることなくこれからも立ち止まることなく色々な角度から対応を図って行かなくてはならないと思っている。</p> <p>皆さまにはこれからもさらにそれぞれの経験値と豊富な見識を基に、学校や児童生徒に対してご尽力いただきますようお願いしたい。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア. 平成29年度 学校・教育委員会の取組について <b>(事務局)</b></p> <p>平成29年度実施予定の芦別市内の小・中学校と教育委員会のいじめ防止に関する独自の取組や北海道教育委員会等が主催する取組への参加数等について報告。今年度策定した「携帯電話・スマートフォン・ネット利用の基本ルール」については、2月に青少年インターネット環境整備法が施行され、未成年がスマートフォンを新規購入する場合、フィルタリング設定を行うよう販売店に義務付けられたこと、次年度のアンケート実施が5月であることから、次年度に点検・評価を行うことを報告。</p> <p>イ. 「携帯電話・スマートフォン・ネット利用の基本ルール」の周知について <b>(事務局)</b></p> <p>第1回目の本連絡協議会の中で、児童生徒への配布や市ホームページ掲載による周知について報告したが、広く市民に周知するために、教育だよりに掲載してはどうかとの意見をいただいたため、8月発行の教育だよりにネット利用に関するアンケート結果とともに掲載したことを報告。</p>
-----	---

教育だよりの1ページ目に囲みでその号の大事なところを掲載してはどうかという意見をいただいたため、今年度発行の教育だよりから掲載をした旨を報告。

また、新小学1年生、新中学1年生に「携帯電話・スマートフォン・ネット利用の基本ルール」を配布する旨を報告。

**(委員)**

保護者がどれだけ、家庭でのルールを作っているか把握してからの見直しが必要と思われるが、アンケートの予定はあるのか。

**(事務局)**

今年度については、アンケートの予定はないが、5月に実施するネット利用によるアンケート調査に「家庭でのルールがあるか」という設問がある。昨年5月実施の今年度のアンケート結果ではルールがある家庭は6割程度であったと記憶している。

ウ. いじめ把握のためのアンケート結果について

**(事務局)**

5月と11月に実施したアンケートの結果に基づき、学校別いじめ認知件数、いじめを訴えた児童生徒数、いじめの内容をその経過を3年間の比較を交えて報告。

4月から文部科学省でいじめの解消について、3か月の見守り期間を設けるよう指導があったため、即解消という判断にはならない旨を報告。

**(会長)**

第1回目の協議会の中で、いじめ把握のためのアンケート結果の公表について意見をいただいた。内容は、本市の状況を広く理解していただき地域を挙げていじめ問題に対する意識の醸成を図る必要があるのではないかとというもの、しかし、もう一方では、狭い地域性の中では、公表することにより、児童生徒が特定され、新たないじめのターゲットになる懸念があるのではないかとというものだった。

現在、北海道教育委員会の中でもいじめの公表のあり方や考え方について検討がなされているという情報もあるため、北海道教育委員会の考え方も参考とする必要があるのではないかと考えている。校長会とも引き続き意見交換を行い、慎重に検討したい。

**(委員)**

北海道教育委員会の検討内容を踏まえて、芦別市でもどうするか再検討したほうがいいのではないかと。

## (2) 協議事項

ア. いじめ防止基本方針について

### (事務局)

「芦別市いじめ防止基本方針」の概要、重大事案が発生した時の流れについて説明。

現在、北海道の基本方針についても素案が示されているため、変更点について説明。

北海道の基本方針の改定後に「芦別市いじめ防止基本方針」の見直しを実施したい旨を提案。

## 4. その他

### (事務局)

第1回協議会の時に、委員より、協議会に芦別高校、星槎国際高等学校にも参加していただければという要望をいただいた。

事務局で協議し、芦別市いじめ問題対策連絡協議会等条例の中に、必要がある時は委員以外の方に出席を求めて、説明や意見を求めることができると定めがあるため、オブザーバー的な形で参加していただけるか、お声がけをしていきたいと考えている。

## 5. 意見交換

### (会長)

本協議会が立ち上がって2年間経ち、2月3日で任期満了となる節目を迎える。2年間、本協議会に参加して思うところや、今後こうしたらいいのではないかというお話しをいただければ、ありがたい。

### (委員)

2年間経験して、自分たちの時代と随分変わったというか、昔は、威張りたい子や、やんちゃな子がわかりやすかったが、今は、どの子がやんちゃな子なのか、大人しい子なのかはわかりにくく、学校も苦労していると思う。ネット関係についても、グループラインなどで人を傷つけても、被害者意識がないという話を聞いたことがある。ネット関係は自分たちも勉強して、ついていって、守って行かなくてはならない時代になっていると感じた。

### (委員)

携帯電話・スマートフォン・ネット利用の基本ルールができたというのが一番の思い出である。これまで、重大事案が発生しなかったという理由には目が増えているという部分もあると思う。

それでも、友達に人間の価値がないと言われたなどという話を聞いたこともある。そういうことを言っている子、言われている子がいるということは大変なことである。そういう子がいるということを念頭において、今後の会議を進めて行く必要があると思う。

**(委員)**

ここ数年、いじめの多様化というか、私たち大人がついていけないようないじめが発生していると思う。多種多様ないじめにどう対応していくかを話し合う必要性を感じている。一つの事例に対し、マスコミの反応も気になる。マスコミが騒ぎ立てることによって模倣犯や愉快犯のようなものも出ているように感じている。

先日、講演で聞いてきたのだが、引きこもりという定義ができてから、日本で最高齢の引きこもりが57歳とのことだった。いじめが原因で引きこもりになってしまうと、普通の引きこもり以上に大変で、専門職も手を焼くとのことだった。

本市の適応指導教室で対応できるのであれば、まだいいのだが、札幌等にしかない施設での対応が必要になると、本人と保護者の負担が大きいと感じた。

**(委員)**

最初の挨拶で会長からあったように、いじめの根絶が一番の願いだが、特効薬を作るのは難しいと、まさにそのとおりだと思う。しかし、その原因を早期に見つけることは可能ではないかと考える。アンケート結果では、いじめられた時に親に相談する子が一番多いとのことだったので、親も色々勉強して、解決に向けて子どもたちを導かなくてはならないと思った。ただ、誰にも相談しないという子もいるので、家庭では親が、学校では教職員が、登下校中は地域の方々がそういう子に早めに気が付いてあげられればよいなと思った。

**(委員)**

いじめは解決が本当に大変だと感じている。一番は親だと思う。信じたくない気持ちもあるとは思いますが、いじめている側の親があまり話を聞いてくれないケースが多い。大人がいじめをどう考えているのか、学校だけでなく、社会でもいじめはあるので大人がいじめについて、きちんと考えて対応し、子どもを理解することが必要だと思う。

**(委員)**

先日、参観日に行った親が、休み時間に子ども達がふざけて

いて、エスカレートしたのか、だれが見ても暴力と捉えられる殴り方をしたということがあったらしい。先生はその場にいなかったが、親たちが注意して終わっただけで、学校全体で児童会・生徒会も一緒に取組んではいるが、そういったことは存在している。高校にあがると SNS のいじめも増えてくると思うので、高校にもオブザーバーとして入ってもらい、少しでも多くの意見を集められるようにしなくてはならないと思う。

**(委員)**

芦別市内の全ての子どもたちが被害者、ましてや加害者にならないような、いじめのないまちづくりをしていきたいと強く感じた。先日、20代の青年の話聞く機会があったのだが、中学時代からいじめを受けていたが、高校に入るまでと思い、我慢していたが、高校に入り、違う友人もつくったが、同じ中学から来た生徒が強く、結局同じになってしまい、その高校を辞めてしまったとのことだった。その青年はいじめのために夢をあきらめたとのことだった。その話を聞いた時、他人事ではないと感じ、芦別市内の子どもたち全員がそういうことがないような取り組みをこの協議会でしていけたらと感じた。

**(委員)**

いじめや不登校以外にも、色々な問題を抱えている家庭が多くある。行政の中でも、連携を取ることが非常に大切だと感じている。

**(委員)**

本当に子ども達の現実は大変かなと思う。面談して「死にたかった。」という子どももいたので、本当に重大な事案にならなくてよかったと思っている。そういうことが、引きこもったり、不登校などのように表面に出てくる場合もあるが、一生懸命に学校に行き、先ほどのお話のように、傷ついて高校を辞めてしまったり、自分で道をどんどん決めて行ってしまう子もいるのかなと思う。このようなケースは高校生にもある。

このようなケースの対応には、連携が大切と感じている。それぞれで、隠すことなく、何とかそういう子ども達を救って行こうという気持ちをこの会の皆さまも含めて、子どもに関わる全ての人を持ってもらいたいと思う。

一つ感じたことは、いじめはどんなことがあっても許されることではないと思うかという質問に、思わない、よくわからないと答える子が数人ではあるが、いるというところである。これを「そうだ、絶対許されないんだ。」と思うように、クラスの中で、子

ども達の中でもんで欲しいなと思う。そういう意見を戦わせることも大切なのではないか。ぜひ、いじめはどんなことがあっても許されることではないと思うかと言われて、思わない、わからないという子を0にする取組をお願いしたいと思う。

**(委員)**

いじめというものは、解決というよりも、未然に防がなくてはならないと改めて感じている。そのためにも、いじめはどんなことがあっても許されることではないということを子ども達全員に理解してもらう必要があると考える。そのためにも教職員が躊躇することなく、子ども達の中に入って、話をして、ちょっとしたことでも見えるような活動をしていかななくてはならないと考えている。また、SNS などについては、地域、家庭などの協力も必要である。連携といっても、具体的に策を持って動いていかななくてはならないと思っている。

**(委員)**

意見をしようと思っけていても、なんて言ったらいいかわからずにここに座っていた。それでも、こんなにたくさんの詳しい資料を準備してもらい、大変だったと思う。そんな資料を見ながら、話し合いを聞いていた。親も、毎日顔を見合わせていけば、子どもの様子がわかる。先生方も子どもの様子をよく見せてくれている。少しでも変わったことがあれば、学校の方にでも連絡くださいと、子どもが学校に上がる時に言われたことを覚えている。

私も中学生の頃にクラスの中で仲間はずれにされたことがあったが、担任、教科担任に見守られ、立ち直った。先生方もいじめた子に注意してくれたが、陰で余計にいじめられた。しかし、どうせ悪い方向に行くのであれば、辛い顔、泣き顔を見せないようにしようと笑顔を作っていた。

今の子は芦別市仲間づくり子ども会議のように小・中・高校生が一緒になって話し合える場があったり、アンケート調査等もしっかりやってくれているので、いじめがなくなってくれたらと思う。仲間を大切にして、意見を言い合える、相談できる友達を作り、自分の思いを伝えられるように意見をしっかり持ち、人の優しさを感じながら、他人を思いやる気持ちを育ててほしいと思う。

**(委員)**

あまり知識のないまま、ここに参加し、思い付きでしゃべることも多かったが、私の意見に対しても、結構対応してくれたことも多く、感謝している。

あるお母さんから、うちの子どもについて、ちょっといじめられていないかと言われたことがあった。私は異変に気が付いていなかったのだが、そのような情報があった時に、このような委員に携わっているにも関わらず、どうしたらいいんだろうかとすごく悩んだ、今思えば、テレホン相談などもあって、電話したらよかったんだと思うのだが、いざとなると思い浮かばないものなんだなと思った。

常日頃から、意識するということは難しいかもしれないが、そういう場合の親の対応や対策も、今後この委員会で話し合ってもらえるのもいいのかなと感じた。

#### **(委員)**

子は宝である。子どもたち一人一人が幸せに暮らせる学校にしていきたい。それぞれ違う子、色んな特徴を持っている子がいるが、子どもたちの集団の中で全てを受け入れることができる子にたちに育ってくれば、いじめは当然少なくなってくるだろうと思う。学校だけではなく、社会の中でもそうなっていける世の中になってもらいたいと思う。

#### **(会長)**

色々な角度からご意見や思いをいただいた。これらのご意見や思いを十分に参考にさせていただきながら、教育活動にあたっていかなくはないという思いを新たにしたところである。

よく健全育成という言葉を使うが、色々な健全育成があるなかでも、全ての子どもたちが“他人を思いやる心”をしっかりと持ち、社会に関わって人間関係をうまく構築していくということが大事なことだと思う。加えて、“命を大切に作る心”というものをしっかりと認識してもらうことも重要なことだと感じている。これらは、ある意味、教育の基本というか、原点なのではないかと思っている。そういう観点から、私たちもしっかり努力していきたいと思っている。

#### **(事務局)**

委員に任期満了に係るお礼と新たな委員選任について説明。改めて次の任期を4月1日からに整えたいと考えている旨の説明を行った。

6 閉会